

## 2015年の世界連合総会に向けてともに歩むために Second Nucleus: March-April

第二の文書は2009年7月29日、同窓会創立100周年に当たり、扶助者聖母会総長のマードレ・イヴォンスからいただいたメッセージです。

今回も、文書とその後の反省のための質問の二部構成です。②、③、④の質問、またはそのうちの一つに答えて、わかちあってください。

### デレガータと同窓生に向けての Mother Yvonne Reungoat の言葉

私たちはローマのドン・ボスコ聖堂にいます。ここは父であり、創立者であるドン・ボスコに捧げられた聖堂で、サレジオ家族の最初の核はここから生まれました。その精神はサレジオ会の教育環境と、互いに認め合う家族を形作っています。各グループがサレジオ会総長の呼びかけに答えて集まり、今やサレジオ家族のファミリー・ツリーが森のように大きく繁っているのは驚くばかりです。

ドン・ボスコの精神は、その後継者であり、同窓会の創設者であるドン・フィリッポ・リナルディに浸透していました。リナルディ師はトリノにある女子のオラトリオの指導司祭で、時代の兆候に敏感で、女性の才能を見出すことに力を注ぎました。女性が文化的孤立から抜け出して才知を分かち合うことを望んでいたのです。扶助者聖母会(サレジアン・シスターズ)の教育環境の中で学んだ、サレジオ・スタイルのキリスト教精神を世界に伝えるために同窓生の組織をつくらうという考えを持ち、それは1908年に誕生しました。

同窓会創設から100年を迎え、私の見るところ差し引きはプラスだと言えるでしょう。組織は大きくなり、現在は多くの国と文化圏に広まっています。その上、同窓会はサレジオ家族の枝の一つとして、その精神と使命を分かち合おうという自覚が高まっています。

ここ10年間で同窓会のカリスマ的アイデンティティーが認識されるようになったことは間違いありません。それは心情的な絆や感謝の念でサレジアン・シスターズとつながっているばかりでなく、世界中で私たちサレジアン・シスターズ修道会の宣教活動に関与しています。たびたび同窓生は私たちの「影の力」、最も近くで助けてくれる人なのです。シスターの新しい召し出しが不足していて撤退せざるを得ない事業と宣教を同窓生に任せることもあるのです。ただの代用としてではなく、同窓生は創立以来ずっとサレジアン・シスターズと同じ目的を持って教育的、慈善的、社会的な分野で積極的に事業に関わるという側面があり、その精神で働いていることが大切なのです。

**私たちの修道会との相互依存の関係**は増えています。同窓生は兄弟姉妹として行動的なパートナーです。生命や人間の尊厳に関する政策や、教育政策、生命倫理に関すること、地球の保全活動を決定する場において我々の最前線になっています。

しばしば専門家の視点でというだけでなく、霊性や宣教活動の推進力としても私たちの先生としてすぐ隣にいてくれます。同窓生が教会や社会のいたるところで、特に最も貧しい人たちのすぐ横に、単純で慈愛に満ち、現実的に即したサレジオ・スタイルで広がっていることに感

しています。多くの場所でサレジオ的喜びの精神という特徴を表していますが、これはマリア・マザレロと初期の扶助者聖母会員が生きたモルネーゼスタイルのドン・ボスコ精神を同窓生が世界に伝えてくださっているという事なので、この運動に対して有り難く思います。

百年前、既にドン・ボスコはいなかったのですが、聖霊がそこに在って、福者フィリッポ・リナルディの信仰と先見の明によって植えられた小さな種に肥沃な土地を与えました。

常に第一線で、不平も言わず、辛い思いをして、仕事に身を捧げている世界中の同窓生に感謝の言葉を送ります。同窓会の歴史に残る百周年行事を成功させるために貢献して下さった全ての人に感謝の言葉を捧げます。

「心に根を張り、世界に手を延べる」という百周年のテーマは同窓会の目的の核心をついていて、今後の百年の幕を開きます。実り豊かにするために、同窓会の第二世紀は心と手、根と果実、観想と行動を変化させ続けなければならないでしょう。心に根を張り、世界に手を延べる事は、マードレ・アントニア前総長も指摘されているように、キリスト者の生き方にとっても総括的テーマです。

私たちは大きな挑戦を受けています。同窓会の将来はこれに応えるみなさんの力量にかかっています。リストアップしてみましょう:

### アイデンティティー

今日、時には他人の文化やアイデンティティーに敬意を払うということを敬遠したいと思っていて、この言葉に恐れを抱いているかもしれません。しかしそれでは本当に他人のために働いたり、他人を理解したり、互いに影響を及ぼし合ったりすることはできません。

それとは対照的に、同窓生は毎日の生活と、意思決定でその偉大な価値を証明し、伝えていきます。これらの選択には外に出て行くことが求められます。また現実主義と同時に私たちが誰を信じ、何を信じ、何のために生きているかということを決意を持って表明する必要があります。

イエスの福音と、ドン・ボスコとマリア・マザレロによって採用されたやり方は私たちにとっての基準点です。誰かに、そして何かに関わるだけでも自分自身の人生を賭けることになる可能性があります。また、私たちが陥りかねない実用的相対主義の弱さから脱け出せる可能性もあります。

教会とサレジオ会の教えはその確かな手引きです。なぜならこの細分化された世界の中で評価と方向づけの模範を与えてくれるからです。

## 交わり

これは未来に向かって開いた大きな賭けです。これについては沢山言うことができますが、生活では人間的結びつきがますます希薄になっている事実を上げておきます。

工学的な情報伝達の世界が広がっても、この広がりには常に人間関係の質的向上を伴っているわけではありません。多面的でグローバルな世界の中で交わりの新たな精神性を再発見するようにしてください。その精神性の中には、客観的尺度に基づいて価値観を選び取れる能動的な主体としての人格が存在しています。

今日、交わりは多文化的な背景から生じる現実が相互に影響し合います。同窓会の国際性もまた多文化共有の表れの中に交わりのレベルを含んでいます。つまり歩みには他人との間でいくつかの基本的変化が必要となります：

1. 自分自身の生活背景(コミュニティー、地域社会、国内)の多文化性を発見すること。
2. 自分自身の文化を批判的な目で認識すること。
3. 他者(人、団体、民族、宗教)との比較の中で自分の差別観を打ち壊し、他者の考えを理解すること。
4. 多文化性を利用して一緒に生活し、働いて(コラボレーション)、異なる文化間での相互理解、冷静な比較、敬意ある対話、人情あるコミュニケーションという歩みを通して差別を乗り越えること。それを希求し、心から出る態度を磨き、結びつき改善しようとするのが重要です。
5. グローバルな視野と、世界市民的感覚を身につけること。同じ意識で働く世界中の家族と手を結ぶネットワークを広げ、効果的に使うために創造的であってください。

サレジオ家族として、私たちはこの歩みを実現するために最も良い条件の中にいます。心を開き、意識を変えるために、信頼と慈愛とに基づいたサレジオ霊性を分かち合って進みましょう。

## 移住者

これは社会状況の中で日々目にすることが増えている現象です。それは私たちの態度について疑問を投げかけ、現実を修正しつつあります。自分たちの国から逃げ出した移住者は何をさがし求めているのでしょうか？ どのように迎入れ、付き合うのか、私たちの中でこの現実と出会い、人間的に豊かになるために何か変えるものがあるのでしょうか？ 彼らが選択した(または選択しなかった)ことの後ろにどれだけの苦しい物語があるのかは私たちには分かりません。分かっていることは今からずっと、各自のやり方で重い荷物を背負わなければならないことです。サレジオ家族のグループとして、私たちは彼らの家族に気を配り、新しい環境にとけ込む過程に寄り添いながら、子供や青少年少女たちを教育するという特色を持っています。

この点に関して、あなたがたが近くや、遠くの状況に注意しながら具体的なプロジェクトを突き止めてくださるよう励ましたいと思います。

## 信頼と慈愛の場である家庭への注目

家庭の中に愛と信頼の基礎が置かれています。そこは同窓生たちが働ける特権的な領域です。特にこの数年間2006年のストレンナ以来、あなたがたは既に家庭に注目しています。まずはあなたたちにとって大事な家族の世話をすることが大切です。あなたがたの多くは結婚し、子供がいるでしょう。あなたがたが伝える価値観、言葉の向こうにある印、あなたがたが何者かということを経験する生活は基本となるものです。あなたがたが信じる価値の上に自分の家族を築くことは同窓生ひとりひとりの一番大事な責任です。

今日、打ち砕かれ、方向を見失った社会を再建するためには、かなりの部分で家族に頼っています。社会は様々な挑戦を受け、危険にさらされています。サレジオ家族は全体として、自然的、霊的視点からこの現実をどのように生き抜いていくか、信頼でき、納得させる証を示しながら、家族であるという証拠を提供することができます。我々がサレジオ家族であるというカリスマ的再発見はそういう感覚を助けることができるだろうと思います。

家庭への注目は生活への注目と、日の出から日没までを支える政策への注目を必要とします。また家庭の上に神様のご計画を実現するために私たちの声を主張するよう求めます。また、同窓生としてあなたがたがつくる家庭については細心の注意を払うようにと求めます。リナルディ師は当初からずっと、相互に助け合い、困った時には互いに心遣いを受け入れるようにと、メンバーの間の連帯を強調されました。

## 福音を説く責任

回勅「神は愛」に立ち返りながら2010年のストレンナを提示する中で、サレジオ会総長はサレジオ家族皆の義務を明らかにされました。他者の面倒を見るように若者たちを援助するという挑戦に応じる事は、ただ自分の目や自分の感性によるのではなく、イエス・キリストの見方によるのです。

時に、はっきりとは頼まないけれど、若者たちはあなたがたを呼んでいます。私たちはイエスに会いたいです。チャーベス総長はこの中心の核にストレンナの焦点を合わせます。「ドン・ボスコや、マリア・マザレロ、初代総長ドン・ルアや、ドン・ボスコの忠実な弟子ドン・リナルディがなされていたように、熱烈な愛情をもって若者たちを福音へと導きながら、彼らの実存的呼びかけに答えます。

現代はこれまでの時代よりも、私たちに愛の伝道者となるように求めています。それはサレジオ会や扶助者聖母会の管区長会議でも強調されました。教育の非常事態への回答は、「イエスはあなたがたを愛しておられる。(利己主義や、分裂、遺恨といった)生活の全てよりも偉大なものは愛である。」という素晴らしい知らせを若い人たちに伝えるために、私たちがどれだけ力を合わせるかで効果を表します。

多分私たちはこの青年のための使命と一緒に引き受けることができるでしょう。ここから本当に会の再生が始まります。教育しながら福音を説く事は愛の業です。行動や、言葉や、生活を通してこの愛が現れる時それは波紋のように広がり、時機が来ると、愛し愛されていると感じる喜びを生みます。

## 永続的な養成

今日、私たちは若者の理解を得るためには言葉だけでなく共に生きる新しい方法や、我々を取り巻く新しい要求を理解するために、もう一度学ぶ必要があります。サレジオ家族として一緒に成熟する時を持つことは、サレジオ精神に基づく共同体の絆を強くするチャンスです。生きがい、愛、希望を失くした若者たちに出会うために備えておくことができます。

サレジアンシスターズと同窓生が共に養成され、召命を補い合いながらそれぞれの状況にふさわしい教育的応答を追求し、信仰のうちに共に成長し、目に見えて信じられる方法でキリストの顔を世界に示し、み言葉によって導かれ、互いに支え合いながら私たちの生活の中に具体的にみ言葉を実現するために互いに出会う場がもっと作り出されるようにと願っています。

私たちはパン生地を膨らませる良質のパン種となるように呼ばれています。それは世界を変える慈愛です。マリア・マザレロは愛に満たされた心を神様の愛に向けて開きました。これこそまさしくモルネーゼの小さな村から世界中に広がった慈愛です。そして私たちひとりひとりの中にも、福音のよい知らせを告げるように神様から派遣されれば従うという、形は違うけれどその同じ力があります。

この行程の中で、サレジオ家族と全人類の母であるマリア様はあなたがたと共にいてくださいます。マリア様は挑戦を識別するように導いてくださるし、キリストの大きな光に照らされた私たちの小さな灯を世界に伝える方向づけをしてくださいます。マリア様を賛美し、愛から生まれた喜びを生きましょう。

自分自身のカリスマ的アイデンティティーを深め、世界中に希望を知らせたいと望んで、この同窓会の第二世紀目の行程と一緒に入っていきましょう。

## 世界連合、管区連合、支部ユニオーネとしての反省

1. 第2の文書「デレガータと同窓生に向けてのマードレ・イヴォンヌの言葉」を慎重に読んでください。
2. サレジオ家族のひとつの枝として、あなたの地域にあるサレジオ家族のグループと協力して働くための提案としてはどの部分が有効ですか？
3. 同窓生は世界中でサレジアン・シスターズの「影の力」です。今現在の現実の中で、この主張に関する具体的な例を3つ上げてください。
4. マードレ・イヴォンヌが提示された挑戦のうち、一番目はどんな解決策を提案しますか？そして四番目には？